

科目名	情報処理演習D/U2 ①	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	石川 洋、上西園 武良、近山 英輔		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-33-B-2-410044	経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的	<p>Access、VB、SQLについて学ぶ。これらの言語はWord、Excelと同様にコンピュータ上で稼働するアプリケーションソフトウェアであるが、これらの言語を使用すると、さらに新たなアプリケーションソフトやデータベースを容易に作り出すことができる。この演習ではコンピュータの利用者が使用できるレベルの高いアプリケーションソフトウェアの使い方を習得する。</p> <p>情報を使いこなすための知識と技術、社会環境や人間活動に深くかかわる情報システムの機能と仕組みに関する基礎知識を習得することを目的とする。</p>				
学修到達目標	<p>コンピュータの利用者が利用できるレベルの高いアプリケーションソフトウェアの使い方を習得する。</p> <p>アプリケーションがどのように開発されるかを理解する。</p>				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	<p>Access 1</p> <p>Accessの概要・オリエンテーション</p>
第2回	<p>Access 2</p> <p>オブジェクトの作成</p>
第3回	<p>Access 3</p> <p>リレーションシップとコンボボックス</p>

第4回	Access 4 ロス分析とデータベースの正規化
第5回	Access 5 体のまとめ、Access理解度テスト
第6回	VBIによるプログラミング 1 VBIについて、プログラミングの基礎
第7回	VBIによるプログラミング 2 計算の仕方
第8回	VBIによるプログラミング 3 コントロールの使い方
第9回	VBIによるプログラミング 4 グラフィックスの使い方
第10回	VBIによるプログラミング 5 全体のまとめ、VB理解度テスト
第11回	SQLによるRDBの操作1 データ操作言語 (DML) の利用
第12回	SQLによるRDBの操作2 データの照会 SELECT文によるデータの取り出し
第13回	SQLによるRDBの操作3 データの照会 FROM節、WHERE節、GROUP BY節、ORDER BY節

第14回	SQLによるRDBの操作4 表の作成
第15回	SQLによるRDBの操作5 全体のまとめ、SQL理解度テスト
第16回	期末試験は実施しない

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	配布テキストに沿って予習を行う（1時間）。
【復習】時間・内容	当日の演習範囲について復習を行う（1時間）。

成績評価	
評価基準・方法	授業内に提出されたレポートの評価を演習点とする。40% 宿題で提出されたレポートの評価を課題点とする。60% 宿題で提出されたレポートのフィードバックの方法は個人情報を削除した見本となるレポートの紹介とレポート全体の講評により行う。
フィードバック方法	授業中に解説する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	教科書を配布する。
受講上の留意点等	Access, VB, SQLの順序は確定ではありません。 前期・後期・年度によって順序は変動することがあるので演習開始時に予定表を配布します。 演習内容は5回連続しているが欠席しても時間中に補講などできないので欠席しないこと。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：C、D

科目名	情報処理演習D/U2 ②	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	宮北 和之、上西園 武良、近山 英輔		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-33-B-2-410044	経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的	<p>Access、VB、SQLについて学ぶ。これらの言語はWord、Excelと同様にコンピュータ上で稼働するアプリケーションソフトウェアであるが、これらの言語を使用すると、さらに新たなアプリケーションソフトやデータベースを容易に作り出すことができる。この演習ではコンピュータの利用者が使用できるレベルの高いアプリケーションソフトウェアの使い方を習得する。</p> <p>情報を使いこなすための知識と技術、社会環境や人間活動に深くかかわる情報システムの機能と仕組みに関する基礎知識を習得することを目的とする。</p>				
学修到達目標	<p>コンピュータの利用者が利用できるレベルの高いアプリケーションソフトウェアの使い方を習得する。</p> <p>アプリケーションがどのように開発されるかを理解する。</p>				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	<p>Access 1</p> <p>Accessの概要・オリエンテーション</p>
第2回	<p>Access 2</p> <p>オブジェクトの作成</p>
第3回	<p>Access 3</p> <p>リレーションシップとコンボボックス</p>

第4回	Access 4 ロス分析とデータベースの正規化
第5回	Access 5 体のまとめ、Access理解度テスト
第6回	VBIによるプログラミング 1 VBIについて、プログラミングの基礎
第7回	VBIによるプログラミング 2 計算の仕方
第8回	VBIによるプログラミング 3 コントロールの使い方
第9回	VBIによるプログラミング 4 グラフィックスの使い方
第10回	VBIによるプログラミング 5 全体のまとめ、VB理解度テスト
第11回	SQLによるRDBの操作1 データ操作言語 (DML) の利用
第12回	SQLによるRDBの操作2 データの照会 SELECT文によるデータの取り出し
第13回	SQLによるRDBの操作3 データの照会 FROM節、WHERE節、GROUP BY節、ORDER BY節

第14回	SQLによるRDBの操作4 表の作成
第15回	SQLによるRDBの操作5 全体のまとめ、SQL理解度テスト
第16回	期末試験は実施しない

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	配布テキストに沿って予習を行う（1時間）。
【復習】時間・内容	当日の演習範囲について復習を行う（1時間）。

成績評価	
評価基準・方法	授業内に提出されたレポートの評価を演習点とする。40% 宿題で提出されたレポートの評価を課題点とする。60% 宿題で提出されたレポートのフィードバックの方法は個人情報を削除した見本となるレポートの紹介とレポート全体の講評により行う。
フィードバック方法	授業中に解説する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	教科書を配布する。
受講上の留意点等	Access, VB, SQLの順序は確定ではありません。 前期・後期・年度によって順序は変動することがあるので演習開始時に予定表を配布します。 演習内容は5回連続しているが欠席しても時間中に補講などできないので欠席しないこと。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：C、D